

2014年度の原油・LNG輸入動向

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ

研究員 岩田創平

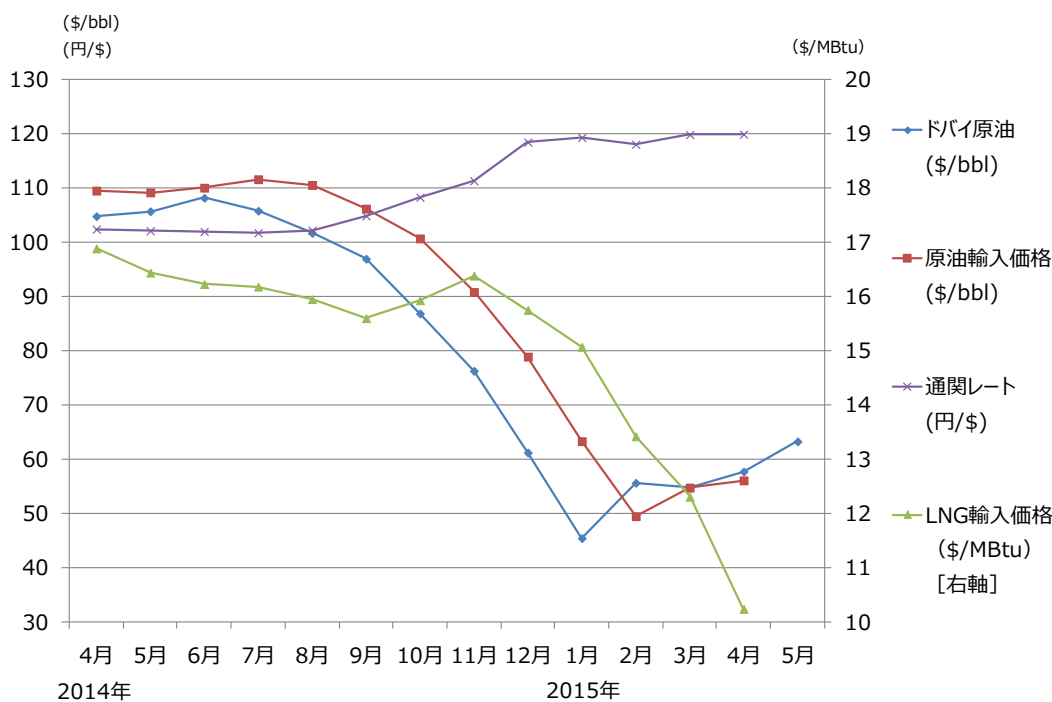
はじめに

2014年度の国内外のエネルギー情勢において、原油価格の下落が最大の注目を集めた。本稿では、原油価格下落による原油・LNG輸入額への影響など、2014年度の原油・LNG輸入動向を整理したい。

エネルギー価格の動向

2014年度上期の原油価格は\$110/bbl前後で推移していたが、中国などの新興国経済の成長鈍化に伴う石油需要の低迷観測や米国のシェールオイル増産などにより、下期に入り徐々に低下した。さらに、11月のOPEC総会における原油減産の見送りを受けて、2015年1月にはドバイ原油が\$45/bblまで下落した。また、ドバイ原油価格から約1か月のタイムラグを経て反映される原油輸入価格は2015年2月に\$49/bblまで下落し、原油輸入価格から約3か月のタイムラグを経て反映されるLNG輸入価格も2015年4月には\$10/MBtuに低下した。

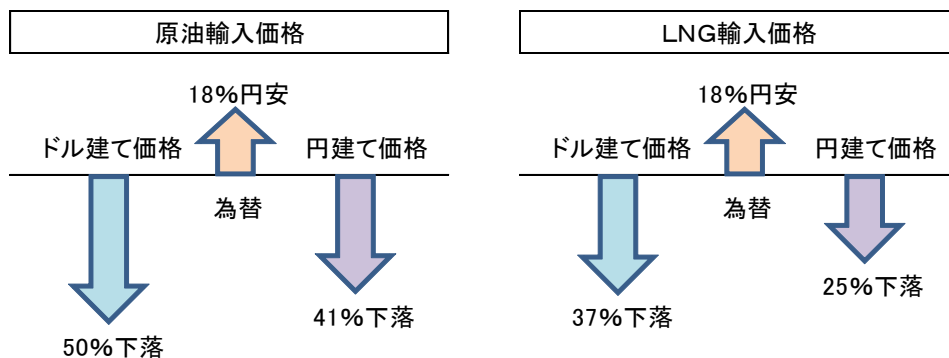
図1 エネルギー価格の動向



(出所) 財務省「貿易統計」

ただし、円安の進行がドル建て価格下落の一部を減殺している。2014年7月と2015年4月の原油・LNG輸入価格を比較した場合、ドル建て価格はそれぞれ50% (\$112/bbl⇒\$56/bbl)、37% (\$16/MBtu⇒\$10/MBtu) 下落したものの、通関レートが18%円安 (102円/ドル⇒120円/ドル) となったことから、円建て価格の下落率は、ドル建て価格のそれを下回る41% (71千円/kl⇒42千円/kl)、25% (85千円/t⇒64千円/t) に留まった。それでも (円建て) 原油価格は5年ぶり、LNG価格は2年半ぶりの水準である。

図2 2014年7月と2015年4月の原油・LNG輸入価格の比較



電気・都市ガス料金

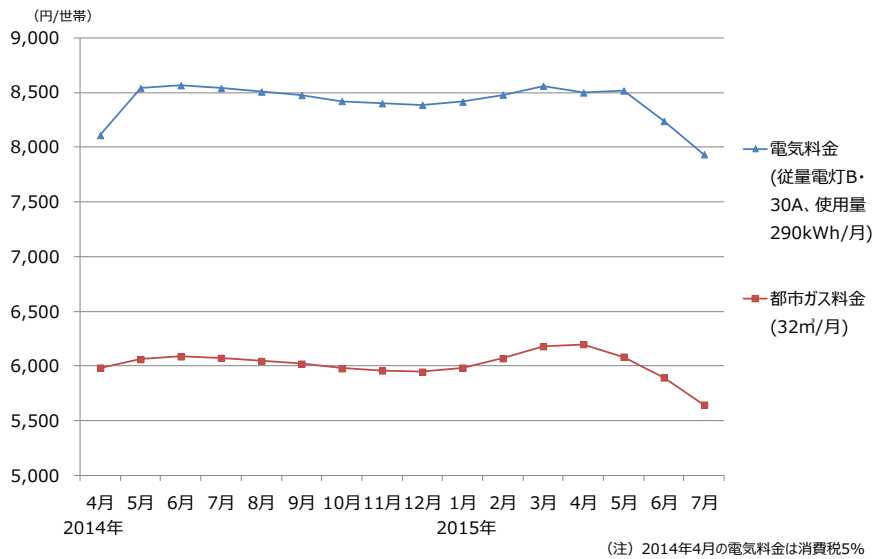
電気料金は原油・LNG・石炭の輸入価格、都市ガス料金はLNGと熱量調整用のLPGの輸入価格の変動分が反映される。この燃料費・原料費調整制度では、原油やLNGの輸入価格が電気・ガス料金に反映されるまでのタイムラグが約4か月 (3~5か月) ある。

図3 エネルギー価格への影響のタイムラグ

	2015年1月	2015年2月	2015年3月	2015年4月	2015年5月	2015年6月	2015年7月以降
ドバイ原油価格	\$45/bblに下落						
原油輸入価格		\$49/bblに下落					
LNG輸入価格					\$9/MBtu程度?		
電気・ガス料金					原油・LNG輸入価格が3~5か月遅れで料金に反映		

2015年度上期の電気・都市ガス料金は、2015年春までの輸入価格下落がこうした時間差をもって反映されることで低下傾向が続く。ただし、足元の原油価格上昇と円安進行の影響を受けて、下期に入り電気・都市ガス料金は徐々に上昇していく見込みである。

図4 標準家庭における電気・都市ガス料金（東京地区）

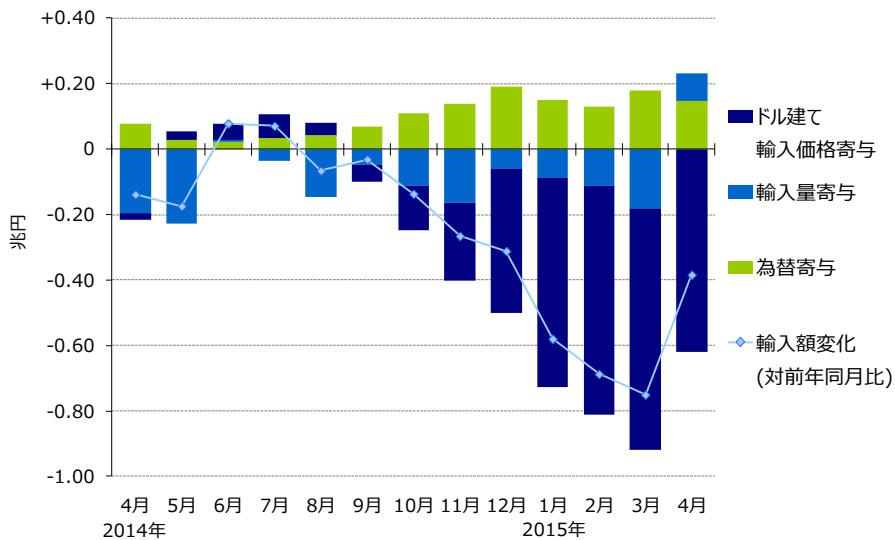


(出所) 東京電力、東京ガス HP

原油輸入額の要因分解

2014年度の原油輸入額は前年度比20.2%、3.0兆円減の11.8兆円となり、4年ぶりの減少となった。アベノミクスによる円安の影響で通関レートが同9.3%、9.3円/ドルの円安ドル高になり、為替要因は1.2兆円の増加寄与となったが、ドル建て輸入価格が同19.0%、\$20.9/bbl低下し、2.8兆円の減少寄与、輸入量は同9.9%、21百万kl減少し、1.4兆円の減少寄与となった。2014年9月以降は原油価格下落の影響を受けて、ドル建て輸入価格の減少寄与が続き、原油輸入額の減少に大きく効いた。

図5 原油輸入額変化の要因分析（前年同月比）

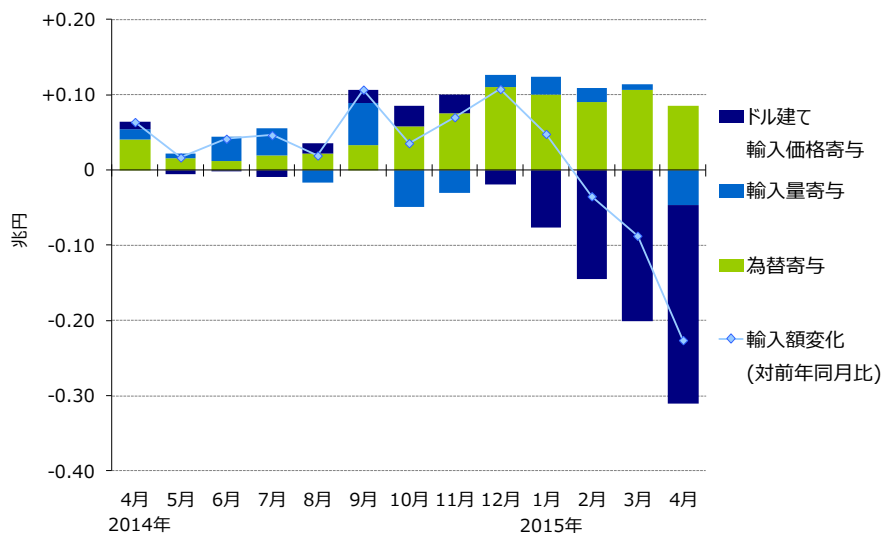


(出所) 財務省「貿易統計」より算出

LNG輸入額の要因分解

2014年度のLNG輸入額は前年度比5.9%、0.4兆円増の7.8兆円と5年連続で増加し、過去最大を更新した。ドル建て輸入価格は同4.5%、\$0.73/MBtu低下し、0.4兆円の減少寄与となったものの、為替が0.7兆円の増加寄与となり、輸入量も同1.5%、134万トン増加し、0.1兆円の増加寄与となった。2014年12月には円建てLNG輸入価格、輸入量ともに単月としては過去最高となったが、2015年2月以降はドル建て輸入価格の減少寄与が効き、LNG輸入額は減少傾向が続いている。2015年度上期のLNG輸入額は、仮に輸入量と為替が前年度並みと想定した場合、ドル建て輸入価格下落の影響により、前年同期比1.4兆円の減少が見込まれる。

図6 LNG輸入額変化の要因分析（前年同月比）



(出所) 財務省「貿易統計」より算出

おわりに

2014年度の貿易収支は9.1兆円の赤字で4年連続の赤字となった。赤字額は2013年度の13.8兆円からは減少したものの、過去2番目の高水準であった。

2015年3月は化石燃料輸入額の減少が寄与し、2年9か月ぶりに貿易黒字を記録したものの、2015年4月には534億円の貿易赤字に再び転じた。貿易収支は輸出の回復もあり、改善してきているとはいえ、足元では原油価格は再び上昇している。今後、貿易黒字を定着させるためには、原子力発電所の再稼動によってLNGをはじめとする化石燃料の輸入量を大幅に減少させることが期待される。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp